

平成30年度 秋学期  
学生による授業評価と授業改善のためのアンケート

結果  
(全体集計抜粋版)

## 1. 全体集計

全体集計	履修者数 2676	回答者数 2220	回答率 83%
------	-----------	-----------	---------

区分	質問番号	質問内容	0%	20%	40%	60%	80%	100%	全体	
学生の 取り 組み	1	学生全体の授業態度はよかった。							17 5	4.06
	2	あなた自身の授業態度はよかった。							12 8	4.13
	3	予習、復習を行った。							7	3.72
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。							12	3.78
授業の 内容、 方法、 教員の 取り 組み	5	授業の難易度は適切だった。							22 16	0.45
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。							28 17	4.09
	7	授業はよく準備・工夫されていた。							42 12	4.08
	8	教材(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。							45 11	4.09
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。							44 11	4.07
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。							51 12	4.06
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。							36 14	4.14
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。							32 12	4.12
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。							32 15	4.13
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。							35 13	4.15
全体的な 評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。							44 103	4.12
	16	この授業を受けて満足している。							49 109	4.11

グラフ内数字は回答数

■ 回答番号凡例

	質問1～4、6～16	質問5
	強くそう思う	難しすぎた
	ややそう思う	やや難しすぎた
	どちらとも言えない	適切だった
	あまりそう思わない	やや易しすぎた
	全くそう思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■ 科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強くそう思う	5	難しすぎた	2
ややそう思う	4	やや難しすぎた	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまりそう思わない	2	やや易しすぎた	-1
全くそう思わない	1	易しすぎた	-2

講義	履修者数	1216	回答者数	1036	回答率	85%
----	------	------	------	------	-----	-----

区分	質問番号	質問内容	0%	20%	40%	60%	80%	100%	全体
学生の 取り 組み	1	学生全体の授業態度はよかった。							3.98
	2	あなた自身の授業態度はよかった。							4.06
	3	予習、復習を行った。							3.66
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。							3.66
授業の 内容、 方法、 教員の 取り 組み	5	授業の難易度は適切だった。							0.54
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。							4.00
	7	授業はよく準備・工夫されていた。							3.95
	8	教材(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。							3.98
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。							3.96
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。							3.95
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。							4.05
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。							4.01
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。							4.04
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。							4.05
全体的な 評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。							3.99
	16	この授業を受けて満足している。							3.98

グラフ内数字は回答数

■ 回答番号凡例

	質問1～4、6～16	質問5
	強く思う	難しすぎた
	やや思う	やや難しすぎた
	どちらとも言えない	適切だった
	あまり思わない	やや易しすぎた
	全く思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■ 科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強く思う	5	難しすぎた	2
やや思う	4	やや難しすぎた	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまり思わない	2	やや易しすぎた	-1
全く思わない	1	易しすぎた	-2

<b>実技・演習</b>	履修者数	1460	回答者数	1184	回答率	81%
--------------	------	------	------	------	-----	-----

区分	質問番号	質問内容	0%	20%	40%	60%	80%	100%	全体
学生の 取り 組み	1	学生全体の授業態度はよかった。							4.13
	2	あなた自身の授業態度はよかった。							4.19
	3	予習、復習を行った。							3.76
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。							3.88
授業の 内容、 方法、 教員の 取り 組み	5	授業の難易度は適切だった。							0.36
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。							4.17
	7	授業はよく準備・工夫されていた。							4.18
	8	教材(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。							4.18
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。							4.17
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。							4.16
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。							4.21
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。							4.21
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。							4.20
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。							4.24
全体的な 評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。							4.23
	16	この授業を受けて満足している。							4.22

グラフ内数字は回答数

■ 回答番号凡例

	質問1～4、6～16	質問5
	強くそう思う	難しすぎた
	ややそう思う	やや難しすぎた
	どちらとも言えない	適切だった
	あまりそう思わない	やや易しすぎた
	全くそう思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■ 科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

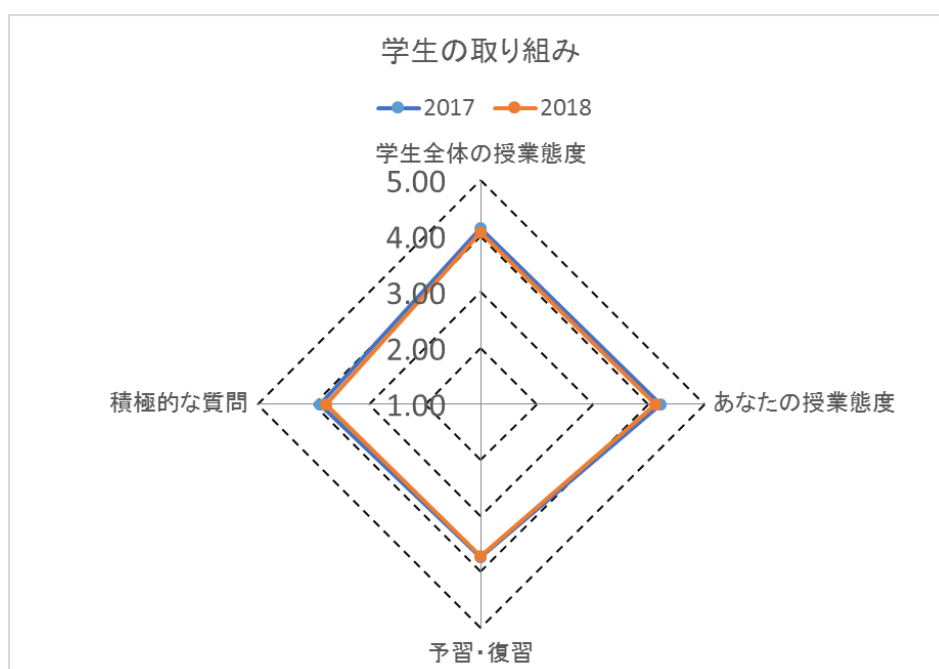
選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強くそう思う	5	難しすぎた	2
ややそう思う	4	やや難しすぎた	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまりそう思わない	2	やや易しすぎた	-1
全くそう思わない	1	易しすぎた	-2

## 秋学期全体集計について

### 1. 回答率について

全体の回答率は83%であった。2015年度から3年間で79%→82%→85%（2017年秋）と回答率は上昇してきており、今回もほぼ横這いで高い回答率を得たといえる。アンケートに協力してくれた全ての学生及び非常勤を含めた全ての教職員の協力を感謝の意を表したい。今後も、高い回答率を維持していかれるよう全学的な努力を続ける必要がある。なお、講義系85%（昨年度84%）、実技・演習系81%（昨年度86%）の回答率であり、実技・演習系科目の回答率が今回はやや下降した。

### 2. 学生の取り組み（全体）について



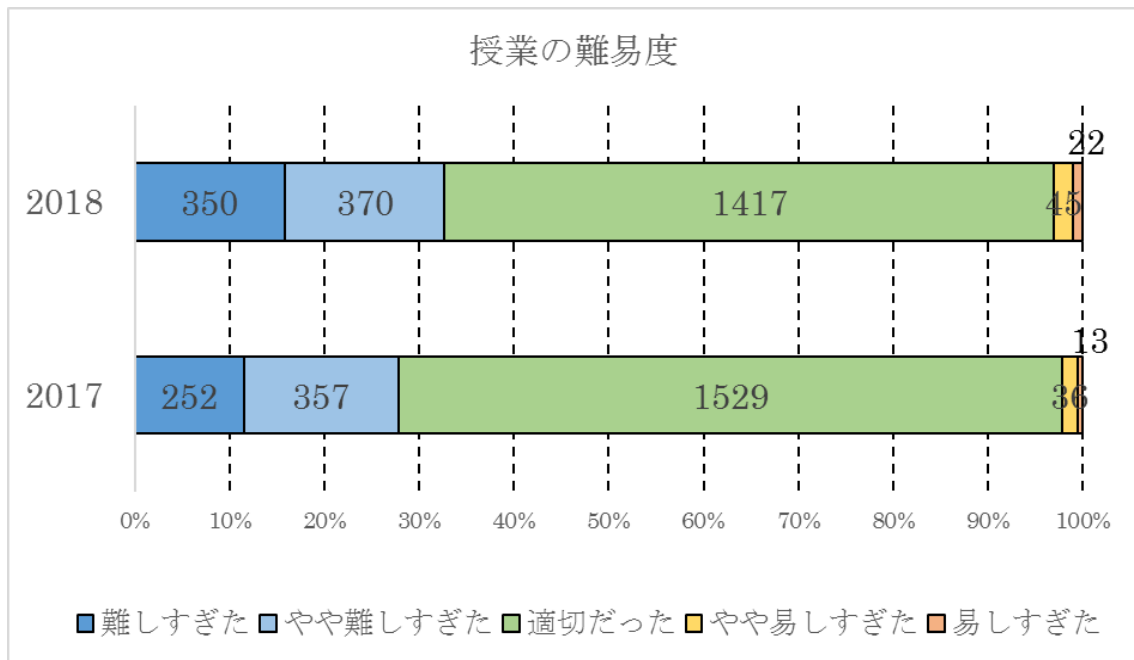
授業態度に比べて、積極的な質問、予習・復習の評定が低いというパターンはこれまでの傾向と同様であり、昨年度と比べてほぼ同傾向であった。

「学生全体の授業態度はよかった」は、2016年度4.19→2017年度4.23→2018年度4.06でやや下降した。「あなた自身の授業態度はよかった」は、2016年度4.25→2017年度4.26→2018年度4.13でこれも若干下降した。「予習・復習を行った」は2016年度3.75→2017年度3.75→2018年度3.72でほぼ同値であった。「わからなかったところは積極的に質問するようにこころがけた」は2016年度3.91→2017年度4.02→2018年度3.78で下降したと言える。

学生全体の授業態度に較べて、自身の授業態度はよいとの評価傾向は各年度共通の傾向であり、やや自己評価が甘い点があるように思われる。予習・復習の値は、各授業で改善を図り今後4.00以上になることを目指したい。わからないことに対して積極的に質問することに関しては、学びに対する積極的な態度を育ててほしいことと同時に、質問しやすい環境を整える工夫もさらに進めたいところである。また、予習・復習に結び付けられる課題や学習方法を工夫したり、わからないところを解決する方法を提示したりする工夫も必要であると思われる。

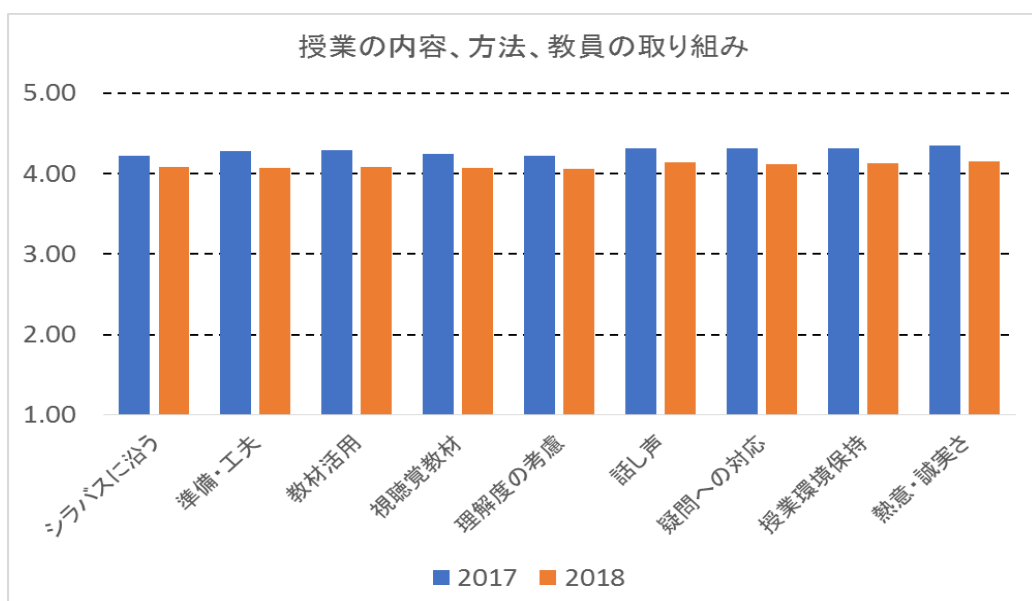
### 3. 授業の内容、方法、教員の取り組みについて

#### (1) 難易度について



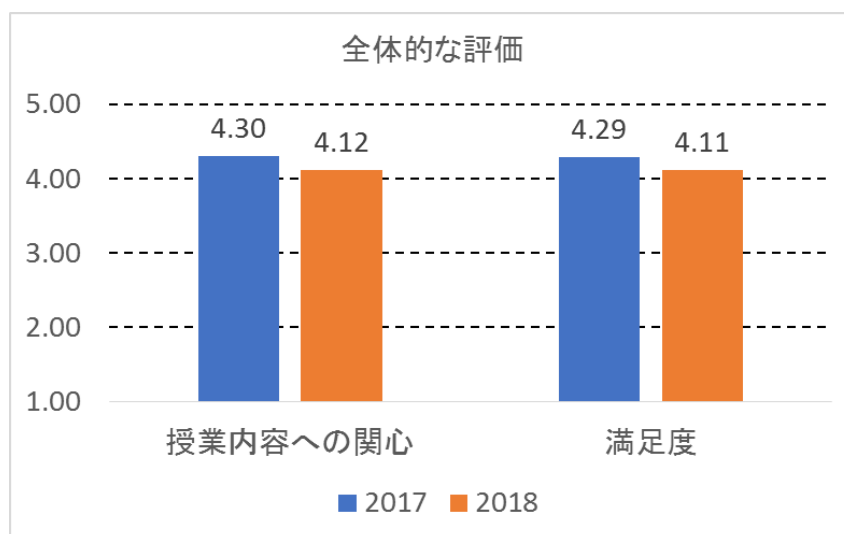
授業の難易度が「適切だった」との回答の平均値は 0.45（難しすぎた 2 点～易しすぎた -2 点）であり、昨年度の 0.30 と比べると「難しい」と感じている学生がやや増えていることがわかる。全体としては、難易度が適切な科目が多かったと判断できるが、全体の 720 名（32.4%）の学生にとって難易度が高いと感じていることに配慮しなければならないであろう（昨年度 27.7%）。ただし、「やや易しすぎた」「易しすぎた」と感じている学生を合わせると 67 名（3.0%）おり、この学生たちが満足するような授業内容や課題も検討する必要がある。学力や授業内容に対する興味関心の幅も考慮しながら、授業運営をする難しさを教職員全体で共有しながら知恵を絞り合うことが求められるように思う。

#### (2) 授業への取り組み



授業の内容、方法、教員の取り組みについてはレンジ 4.06~4.15 であり、昨年 の 4.23~4.35 と比較すると全体に下降していることがグラフからもわかる。全体平均は 4.10 であり高得点といえるが、昨年度に比べてなぜ全体的に下降したのか、その原因を注意深く見ていく必要性を感じる。最も高得点 (4.15) であったのは「教員の取り組む姿勢に誠意、誠実さ、真剣さを感じた」であり、次に高得点 (4.14) は「教員の話し方は聞き取りやすかった」、3 番目は「教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした」(4.13) であった。昨年度 (2017) の平均値は 4.29 であり、2015 年度 4.15、2016 年度 4.26 と徐々に上昇していただけに、その原因を考えながら授業を展開することが重要であろう。

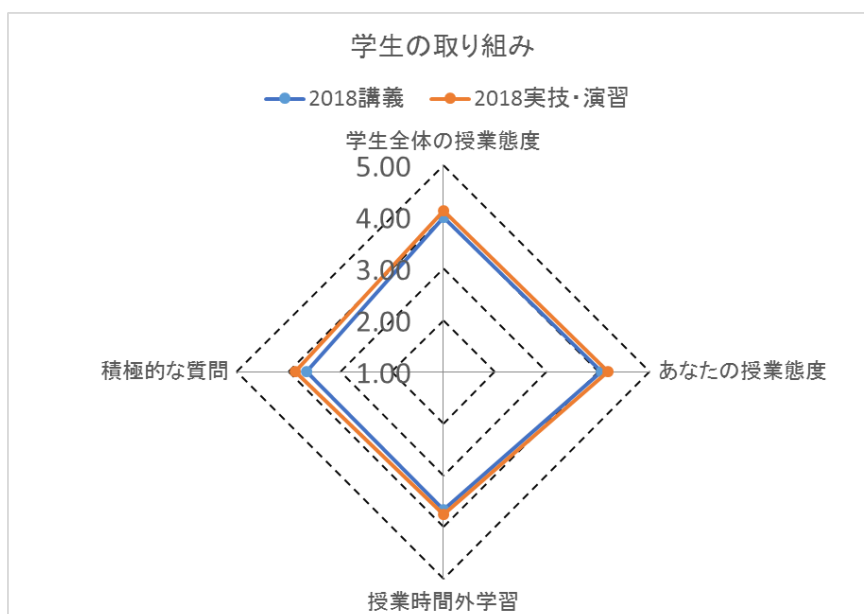
### (3) 全体的な評価



「この授業に関連する内容への関心が深まった」「この授業を受けて満足している」という全体的な評価についても昨年度に比べてやや低下した。全体としては 4.11 以上でと高水準を維持しており適切な授業が展開されていたといえるが、2018 年度春学期もこの下降傾向が見られたことに注意を払いたい。

## 5. 講義系科目と実技・演習系科目

### 5-1 学生の取り組み

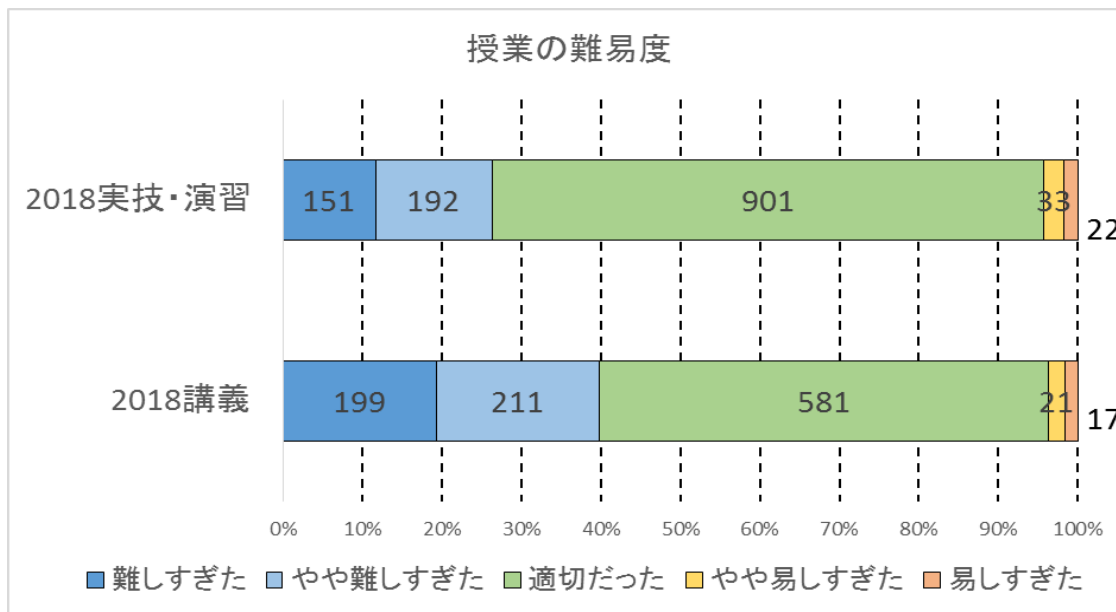




「学生全体の授業態度」「本人の授業態度」「積極的な質問」「予習・復習を行った」のいずれにおいても実技・実習系科目の評価が高かった。これまでのアンケートでは同様の結果が続いている。

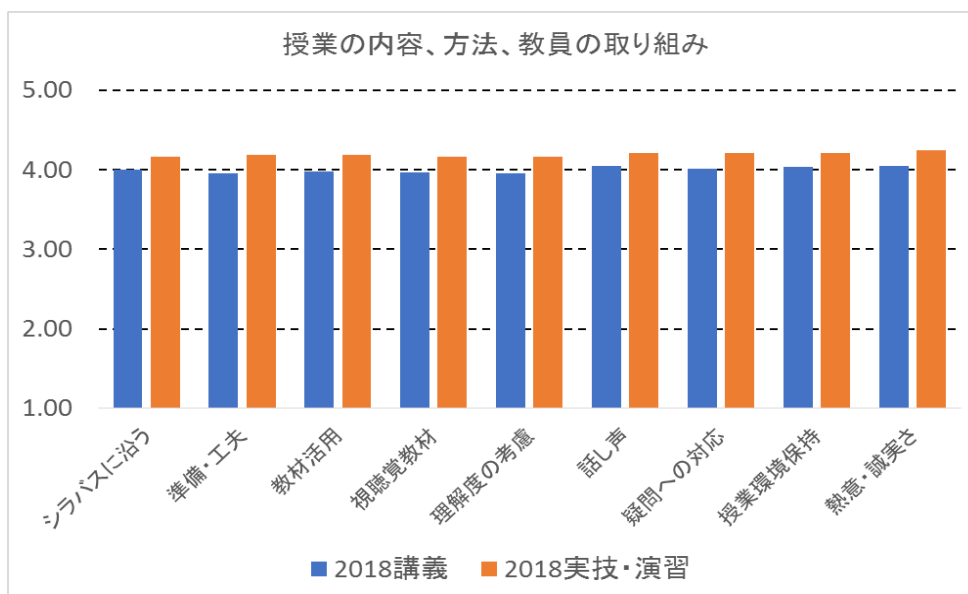
## 5-2 授業の内容、方法、教員の取り組みについて

### (1) 難易度について



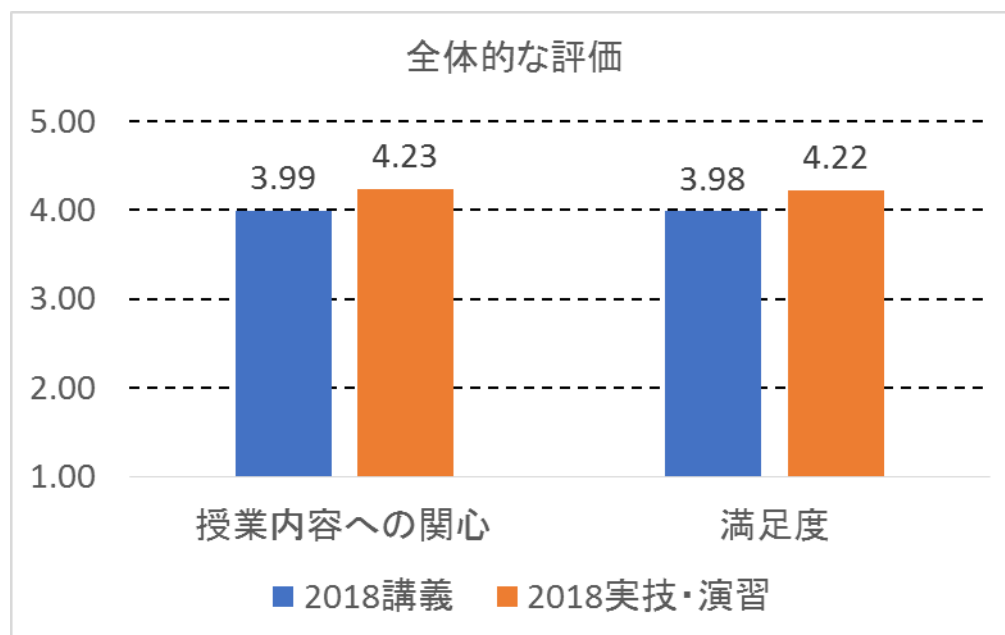
授業の難易度に関しては、「適切だった」との回答率は、実技・演習系科目の方が、講義系科目より多かった。また、「難しすぎた」「やや難しすぎた」の回答率は、講義系科目の方が、実技・演習系科目より顕著に多いといえる。講義系科目の一部に難しいと学生が感じる内容があったことが推察される。また、実技・演習系で難しすぎたと回答した学生は、特定の科目に偏っているわけではなく、様々な実技・演習系科目に1～2名程度が回答していた。実技系科目は、得意不得意がはっきりと分かれるため、科目によってはTAなどを活用して苦手な学生の支援が必要となるであろう。

### (4) 授業への取り組み



授業への取り組みについては、実技・演習系科目が講義系科目を僅かに上回る評価であった。昨年度と比べると、実技・演習系科目はレンジ 4.16~4.24 で評価平均値が 4.19（昨年度 4.35）、講義系科目は 3.95~4.05 で評価平均値 3.99（昨年度 4.20）で、実技・演習系科目、講義系科目ともにやや下がった。本学の学生の特徴として座学より実技や演習で身体を動かすなどの体験的学習を好む傾向があるが、今後の講義科目においてもグループワークやアクティブ・ラーニングなどの参加型・能動的な授業形態を積極的に取り入れる必要があると同時に、教材や授業内容の選定も学生の状況に合わせてさらに工夫を要するといえるだろう。

#### (5) 全体的な評価



「この授業に関連する内容への関心が深まった。」「この授業を受けて満足している。」という全体的な評価については、2017 年度と同様に実技・演習系科目が講義系科目を上回る結果となった。しかしながら講義系科目も平均 3.98 を上回る結果となっており概ね高水準といえる。

#### 6. まとめ

2018 年度秋学期の FD 授業アンケートの結果からは、学生の取り組み、授業の内容、方法、教員の取り組み、全体的な評価の全ての評価項目において、前年度に比べて僅かではあるが全体的に下降していることがわかった。また、本学の学生にとって、実技・演習系の科目の方が、講義系の科目に比べて、学修意欲を喚起するという傾向は変わらないが、ともに評価平均点が 3.99 以上であり、各講義系科目の工夫、努力が徐々に学修効果を上げてきていることが推察される。実技・演習系科目の評価が講義系科目に比べて高い評価を得ることは、他大学などでも同様に見られる。もともと、保育者を志す学生の場合、音楽を演奏したり、運動したり、製作したり、遊んだりすることが好きで得意であり、興味関心を持って積極的に学ぶ姿勢があり、一方で、座学がやや苦手であるという傾向はあると思われるが、専門性の高い保育者として成長するために様々な情報や知識を学ぶためには講義系科目にも積極的に取り組んでもらいたい。今後、講義系科目について、自分の世界が広がっていくことの楽しさに気づいてもらいたいと同時に、学ぶことが楽しくなるような授業者の工夫が益々必要になってくると思われる。

また、既述のように、授業に対して 32.4%の学生がまだ難易度が高いと感じていることに配慮しなければならない。この率は昨年度 27.7%と比べると 4.7%増えている。その一方で、「やや易しすぎた」「易しすぎた」と感じている学生も 3%程おり、この学生たちが満足するような授業や課題の工夫も必要であろう。学力や授業内容に対する興味関心の幅も考慮しながら、授業運営をする難しさを教職員全体で情報交換し、方略や工夫を共有できるような FD 研修の創設を急ぎ検討したい。

最後に、中央教育審議会(2012)が、“従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である”と指摘するように、本学においても、引き続き、教員と学生が相互に知性を高めていく学生主体型の学びへの転換が求められる。